

二〇二〇年九月一九日

満月のわが吾影を踏む散歩かな	宏 虎
畦道の散歩稲穂に触れもして	はく子
能勢路いま刈田稔田農繁期	よう子
潜り戸にやんちや坊主菽括る	かかし
蜘蛛の囲の潮風孕む札所かな	なつき
神木の洞深きより秋の声	はく子
秋暑しあらぬへを向く道路橋	せいじ
爽やかに百四歳の笑顔かな	わかば
山祇に落とす賽銭つくつくし	うつぎ
磴走る宮司の裾の爽気かな	そうけい
旅立の近しと並ぶ秋つばめ	こすもす

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二〇年九月二〇日